

趣味と人生

山本吉信

私たちは何のために生れたのか。直接には誰にも分からない。気が付いたら生れていたのだから。明らかなのは、いま、ここに生きているということである。生きていく限り、よい生活をして幸福に暮らしたいと思う。だが、よいとは何か、幸福とは何か。豊かであればいいと、富裕な人の幸福を羨んだり、達者で暮らすことを何よりの幸福と想ったりする。まずはそれに違いないのだが、それらすべてに恵まれても、もし楽しくなく、喜びがなければ、いいとは言えないのではないか。楽しい喜びとともにある暮らしが、幸福なのだと考えられる。だが、苦しく嫌なこと多いこの世で、なお楽しい喜びを保つには、それなりの賢い工夫、知恵がなくてはならないであろう。陋巷にあってその楽しみを改めることのなかった顔回の賢に倣わなければならぬのかもしれない。趣味もまた、世の荒波を避けるための、人生の楽しい避難港として、そのような工夫のひとつなのではないか。だが悪趣味ということがある。だからその楽しみに、美が加わることによって、趣味は人生を飾るものとなるであろう。美とともにある楽しみを教えてください。よく生きることは、人生の幸福の究極を見ることになるのではないか。よく生きるとは、美しく生きることその極致とするように思えるからである。

鳴川会場

二十一世紀へ向けての日本の教育

—そのあるべき姿を求めて—

長戸路 千秋

- 一、そもそも「教育する」ということが、人間にとって如何に重大なことであるかということ、従来普通になされてきたよりも、もっと根本的に洗い直してかかることから始めなければならない。(A・ポルトマン、ティヤール・ド・シャルダン等の学説の紹介)
 - 二、そこから出てくる結論……教育は、天地宇宙を支配する道理を謙虚に追求し、それに随順して生きる努力を生涯にわたって続け得る人を育成することを窮極目的とする。
 - 三、この窮極の理念から考えて、二十一世紀の教育の基本となるべきことからは、次のように集約できる。それは、一口に言って、道理を尊重する姿勢を育成することである。
- これをもっと具体的に言いなおすと、
- ① 「いのち」を尊重する教育
 - ② 「国際性」を尊重する教育
 - ③ 「個性」を尊重する教育
- ということに帰するといえる。